



短期留学生 感想文

2014 Feb

短期留学生

【中国】

- 1 王 卓越 (WANG ZHUOYUE / 東北電力大学 / M1)
- 2 許 偉 (XU WEI / 東北電力大学 / M1)
- 3 孫 禕臨 (SUN YILIN / 東北電力大学 / M1)
- 4 黄 建勇 (HUANG JIANYONG / 東北林業大学 / 3年)
- 5 王 少謙 (WANG SHAOQIAN / 東北林業大学 / 3年)

【韓国】

- 6 KANG CHEOLHOON (昌原大学校 / 4年)
- 7 LEE JANGWOO (昌原大学校 / 4年)
- 8 OH MINSIK (昌原大学校 / 4年)
- 9 LEE JAEHYEON (江原大学校三陟キャンパス / 4年)

【モンゴル】

- 10 DULAMSUREN PUREV (モンゴル科学技術大学 / 3年)

窓景色

王 卓越 (WANG ZHUOYUE)

今僕は去年北見に初めて来た時のことをまだ覚えています。今と同じ寒空と雪に覆われた大地。とても寒かった天気……

今の僕は、鎧戸を軽く開けると、外には優しい雪が積もっていて、窓からは月の明かりが差し込んできています。

一年の時間は短くないですけど、何か早く過ぎていった感じもあります。一年の時間に、嬉しくて、楽しくって、時には寂しかった……そんな過ぎた日々のが懐かしく思い、感謝の気持ちと共に、皆と別れる寂しい感じがあります。

いつも微笑んでいる Natalie 先生、可愛い尾山先生、優しい久保先生、真面目な美和先生、また Taiwan 語が話せるいつもおかしいことを話している鈴木先生…。

アルバイトした時は、まるで一人で車の流れが多い外環状線を歩いていたような感じでした。静かと騒がしい狂喜です。

ゆっくり喋る赤羽根社長、仕事に対して真面目な斉藤さん、僕にアイスクリームをあげる藍さん、小田、及川、風哥、柚子…。

しかし、こんなすべてはいまもう記憶ですよね。記憶として必ずいつかだんだんぼんやりとなります。ちよっとかなしいです。

でも、世界中いつでも変わらないものがまだ一つ。それは変化自身。北見として小さいまちにそんな可愛い人々がいる。これだけ、僕はずっと覚えています。そんな記憶はもう僕の力になりました。ずっと僕の心にあります。

思い出の写真



楽しかった留学生活

許偉 (XU WEI)

楽しい時間はいつも早く早いです。私は去年4月日本に来ました。今まで10月が過ぎました。この10ヶ月間いろいろな日本の特別な経験があります。和食を食べたことがあります。きれいな景色を見たことがあります。日本の凄い工場を見学したことがあります。先生たちは本当に親切です。たくさんおもしろい活動を準備しました。だから、私たちはもっと日本を知ることができます。

日本は本当に凄い国です。実は小さい国から、資源も少ないですけど、ずっと世界中に強い存在でいます。私は日本に敬服しています。どこでもたくさん自動機があります。そしてみんなの生活は他の国より便利です。幸せかな。

なんでも、日本の食べ物は世界中で一番きれいです。全部安心です。中国の食べ物はいつもいろんな問題があります。私たちは必ず日本に習います。

私は日本の文化が大好きです。漫画とか、相撲とか、和服とか、三味線とか。私は一度新年音楽会で三味線を聴いたことがあります。すばらしい技巧ですね。中国でこんな音楽を全然聴いたことがありません。残念です。

私はすぐ国に帰ります。また日本に住みたいです。ちょっと悲しいと思います。しかし仕方ありません。私は将来もう一度日本へ来たいです。もう一度みんなに会うことができます。

思い出の写真



夢が覚めた

孫 禕臨 (SUN YILIN)

楽しい時間はいつも早いものだという中国のことわざがあります。ほら！本当にそのとおりです。去年の4月から今まで気づいたら、10ヶ月を過ぎました。早すぎるから、現実ではなく、夢のようです。今も信じられません。地図の上での良く知っている地名を見て、カレンダーにいっぱい書いたスケジュールを見て、カラオケでよく歌う歌を聴いて、フェイスブックでどんどん増える友達の人数に気付いて、または持ってきたお金がどんどんなくなって、「あ！私は日本にいるかあ！あ！もう一年でしたか」ということに気付かされました。

日本にいる間は、すばらしくて、意味のある一年間でした。一人の生活は難しくと感じたけれども、同時に一人の生活はとても自由であることも感じています。私はいまだに覚えています。ナタリー先生の一回目の授業で、留学生が日本での一年間の心理状態をグラフにした図のことです。そのグラフは留学生が日本に来て、最初の3ヶ月は新鮮で、わくわくする気持ちでいっぱい、その後しばらく孤独を感じ、生活にもなれて、日本語の上達につれ、もうここは私の家だと思える段階に分かれています。幸運なことに、私は本気に寂しく感じたことは一度もありません。ラッキー！ここでの一年間ひとつとも、逃げたいと思ったことがなく、そのまま、ずっと楽しくて、過ごしました。

7月のときに半年間ずっと一緒に遊ぶ友達と別れてしまって、その後、長くて、誰もいない夏休みがきました。初めて、毎日寂しい、寂しいと叫びました。でも、ここ

でやりたい事がいっぱいあるので、心からそんなに寂しいと感じませんでした。振り返ってみると、人生の「初めて」がたくさんここで体験しました。初めての野球体験、初めのカーリング、初めのスキークラス、初めのボーリング、初めのパークゴルフ、初めの太鼓体験、初めの盆踊り、初めて自分で自分の生活を決めました。自分は日本に来たことが人生という課程を学ぶように感じて、24年間、未体験のことをどんどん体験して、24年知らぬ人と、今は仲良くなりました。

私の中国での大学に感謝しています。ここにくるチャンスをくれて、ありがとう。北見工業大学にも感謝しています、とても素晴らしい環境を提供してくれて、だからここで住めば住むほど帰りたくなります。ありがとう。

私の先生たち、いつも親のように優しく、いつも馬鹿なことをした時、大丈夫だといってくれて、私に気をつけてくれて、いつもたすけてくれて、ありがとう。私の大好きな友達、ここで皆と出会ったことが私にとって一番大切なものです。ほら、24歳の誕生日プレゼント、手紙、年賀状、はがき、または私との写真、これらはすべて私たちが北見で生活した証です。

そうです！北見は東京みたいな大都市の雰囲気はないけど、でも、素朴な感じは私の第二のふるさとのようです。

思い出の写真



北見の生活

黄 建勇 (HUANG JIANYONG)

四月に、私は北見へきました。この時、あまり日本語ができませんでした。「すみません、トイレはどこですか。」、「すみません、ここは北見ですか。」これだけ。でもこのセンテンスが実用に適しています。JRの電車の中で全部使いました。北見に到着しました。北見はどんな町ですか。その時はわかりませんでした。一年終わって、今答えを知りました。

春、北見の春はちょっと遅いです。でも、綺麗です。花が全部咲いた時、桜の木は火が付いたように……。友達と一緒に花見や、焼き肉など、いろいろな面白い活動に参加しました。日本の生活にだんだん慣れました。

夏、暑い季節です。桜はすべて散りました。温度が高くなりました。日ざしが強くなりました。私たちの友情も深まりました。北海道の有名な場所をたくさん観光しました。旅行の時、私たちは一緒に冗談を話しました。一緒に最高の夕日見ました。一緒に歌を歌いました。これは一番楽しかった思い出でした。夕日が無限に素晴らしい、一瞬間でした。友達は自分の国に帰ります。寂しかったです。

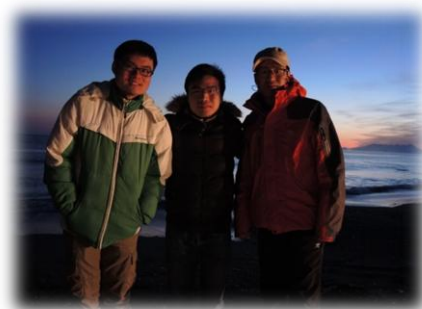
秋、窓を通して空を舞い落ちました。枯れ葉を見て秋が来たと感じました。まさか秋は悲しみと孤独しかもたらせないのだろうか。いいえ、秋はロマンチックな季節です。街路樹は黄色付き、枯れ

葉が歩道を埋め尽くしました。これが北見の秋です。夜の時、網走で釣りはしました。これまでにこんな壮観な日の出の光景を見たことがないです。忘れられない時間です。顔が秋風に吹かれても冷たく感じないのは、あなたは秋だけではなく、いつも一緒にいてくれるとわかっているから…。

冬、雪が降りました、世界は白くなりました。一緒にスノーサッカーをしました。一緒に雪たまるまを作ったり、一緒にスキーをしたりしました。これは北見の冬です。外は寒いです。でも私の心は寒くないです。冬でも色々な所へ遊びに行きました。孫さんと一緒に東京で遊びました。スカイツリー、東京タワー、ディズニーランドなど……。行きたい場所は全部行きました。楽しかったです。

一年は短かったです。春、夏、秋、冬、私たちここで、素晴らしい思い出を一緒に作りました。今自分の国へ帰るところです。いろいろな思い出が頭の中に出てきました。でも、日本語が上手ではありません。自分の気持ちを描き出すことがよくないです。一年の中に、いろいろお世話になりました。本当にありがとうございました。

思い出の写真



北見工大での留学記

王 少謙 (WANG SHAOQIAN)

やっと、卒業の日になりました。この10か月の中で、いろいろなものを学びました。まず、北見工大の皆さんに感謝します。

北見工業大学は素晴らしいグループです。ナタリー先生、白鳥先生、小野先生、尾山先生、鈴木先生、末繁先生、いろはの先生など本当に優しくて、素晴らしい先生です。工大で勉強したことからたくさんのものをもらいました。これは私の人生にとってもっとも貴重なものです。国へ帰っても、ずっと日本語を勉強し続けるつもりです。

工大で上記申した人だけでなく、クラスとほかの先生も皆秀でる逸材です。お互いに正しい答えを検討し、勉強中喜ぶこと、悩むこと、色々ありました。これは人と人の心を結びつけるものです。自分はこのグループの人から認められますから、心が強くなります。たくさんの心を温かめるものがあります。

この十か月に色々な挑戦をしました。日本語の勉強は私の一生の趣味になりました。というのは、自分は努力して、結果はどうになっても、過程は尊いものです。一つのことを取り組んでいるときに、自分はまた大きい潜在力を引き出していないことを分かったのです。

本当はこの話を終わりたくないです。皆さんの将来の生活も、仕事ももっと幸福なことをお祈りいたします。

思い出の写真



私が感じた日本と北海道

KANG CHEOLHOON

日本は近くて遠い国だ。韓国と日本の関係で日本を良く思っていなかった。もちろん日本語は考慮の対象ではなかった。東京に2回訪問した。ひらがなも読むことができなかった。すべてのことを英語にした。そして交換留学生として日本を選択した。

私にとって、交換学生は出口だった。アメリカでも、中国でも、日本でもとりあえず韓国にいるのが嫌だったので。最後の一つ残ったのが、北見であった。交換学生の準備を終えた後、だんだん怖くなった。私は日本語を話すことができないので。ひらがな、カタカナから学んだ。数字の読み方を学んだ。私のような多くの学生がいた。ご飯を食べに行くのも勉強になった。テレビを見るのも勉強だった。言うのも勉強だったし、全部勉強になった。少しずつ日本語が聞きとれた。日本語で話すことができるようになった。面白かった。

私はコンニチハとアリガトウゴザイマスだけ知っていたから。多くの縁を作った。外国人の友達もたくさんできた。親切な日本人たちにも会

った。後輩たちと自転車に乗って美幌とオンネ湯にも行って来た。私の自転車は、友人だった。ありがとうね自転車。北海道の美しい風景は私に多くのものを与えた。広い大地、青い空。それだけでよかった。1泊2日のキャンプ、アカン鼻と釧路の旅行、国際フードフェスティバル、ボンチ祭り、花火、そしてC Hourで得た経験は一生忘れられないだろう。

1年間の生活は、日本に対する私の考えを変えた。余裕ができた。韓国は常に早い早い早いだから。北海道に来てから、私は遅さを学んだ。ゆっくり歩くのも悪くない。歩きながら見える風景も十分すてきだったから。それが私が感じた日本と北海道だ。

縁は私の心に入れた。思い出は、私の頭に入れた。私の第二の故郷の人々に言いたい。これまでありがとうございました。すみません。そして、愛しています。

思い出の写真



北見での一年間

LEE JANGWOO

日本に来るまで多くのことがあった。2013年11月のある日、先生から日本に行ってみないか勧められた。おかげで、一気に交換学生申請を終えた。合格の結果を待つのは大変だった。2月になってから合格をもらった。飛行機の子チケットを買うことをときめく心で待っていた。そして、3月26日、金海空港から出発した。

札幌の第一印象は、寒さと雪だった。暖かい昌原に比べて札幌の温度は適応が難しかった。特に昌原は暖かい地方だから雪を見るのが難しい。しかし、3月の終わりにも雪が降る風景は簡単に適応できなかった。ホテルで荷物を緩めて3日間、札幌と小樽を旅した。だんだん日本という国について興味がでてきた。韓国から趣味で日本語を勉強したので、旅行に役立つことは多かった。

3月29日、ついに北見に到着した。工大に歩いていく途中で、ナタリー先生に会った。おかげで、車で簡単に寮に到着した。荷物を整理した後、いよいよ実感がした。ああ、私1年の間にここで生活しなければならぬんだな。

授業が始まった後初めて外国人の友人を作った。授業もすべて日本語で行われた。楽しさもあったが大変だった。

しかし、時間がどんどん過ぎて適応し始めた。多くの人に会って多くの助けを受けた。日本語もどんどん増えて、いつの間にか辞書を使用せずに、日本語を話すことができるようになった。過去1年間に多くのことをした。

日本人のおじいさんと縁を結んで多くのことを一緒にした。そのおじいさんの家に招待を受け、日本の食べ物も食べた。おじいさんと旅行もたくさん行った。広い牧場を見て思った。大きな人になろう。日本のお正月には招待を受け、お節も食べた。最近では、おじいさんにボードを学んだことが楽しかった。

1泊2日のキャンプ、阿寒湖と釧路旅行、祭り、すばらしい旅行をした。楽しい思い出を作った。もうすぐ韓国に帰る。交換学生の経験で多くのことを学んだ。おかげで韓国に行っても何でもよくするようだ。すべてが恋しいだろう。しかし、思い出は永遠である。私が作った多くの縁で私は成長した。みんな、ありがとうございます。そして、永遠に記憶させていただきます。

思い出の写真



ありがとう！

OH MINSIK

北見に来てもう1年が経ちました。ここで、1年間の生活は私には幸せで、楽しいことがいっぱいでした。

初めての韓国学校での短期留学を北見に決定されたのも、本当に偶然でした。そして、北見まで来て旅も大変でした。なぜなら、日本語はぜんぜんできなかつたです。できない日本語で、日本の人々と話をして、先生たちに日本語を学び、韓国先輩たちに日本の生活を学び、その生活しました。

最初はすべてがぎこちないだけで、なぜ私はここにいるか？あれこれ考えました。しかし、そのことは、最初だけでした。ますます日本語が慣れて日本の生活に慣れていきながら、日本の人々が良くなって、もう少し身近になりました。そんな些細な一つ一つが楽しかったです。

韓国での私の姿を考えるとありえないことでした。韓国でいつも忙しく生活しました。ところが、この場所で日本の人々と話をしながら笑って、おいしい食べ物を食べに行つて、登山、サッカー、バレーボール、ハンドボール、卓球、スノーボードなどのスポーツもたくさんしました。勝つための運動ではなく、一緒に楽しむ運動でした。

そして、お世話になったことも本当に多かったです。食べ物を買に行くときに車に乗せてくれた先輩、日本語もできないのに、アルバイトをさせてくれた店長、日本語能力試験を手伝ってくれ先生、韓国料理をしてくださつたおばさん、一緒に運動しながらご飯を買ってくれたおばさん、数え切れないほどの助けをたくさん受けました。

国際交流センターの先生は北見ですることができいくつかの体験の機会を提供してくださいました。日本をより簡単に目で理解する機会をいただきました。

この場所北見に来たのが私にはラッキーでした。そして、幸せでした。狭い心が広がって、柔らかくなりました。いつも狭い心が変わりました。本当にありがとうございます。

小さな土が集まって家を作って山を作るよね。そのように私に与えられた小さな心が私の心に大きく成長しました。本当にありがとうございます。皆さんのおかげでこんなに元気に戻ります。

思い出の写真



1年はとても短いと感じられるほど日本の 北海道・北見での記憶

LEE JAEHYEON

3月27日に北見来て、「韓国では盛んに春なのにここはいまだに雪が降ってすごく寒いね」と言ったのが一昨日ようなのに、もうそろそろ日本から離れる準備をしなければならぬことが実感できません。

今まで過ごした留学生生活を全体的に振り返ってみると、普通に韓国で暮らしていたら経験できない、多様で貴重な経験をしたと思います。

人生の中で、海外での留学生生活はなかなか体験できない機会であり、ここで、見て、聞いて、食べて、眠る…。私がしていたすべてのことは、日本人にとっては日常的な平凡な生活でしょうが、私にはすべてが珍しくて面白かったです。

同じ空ですが、韓国の空とは違うように、北見の空はもっと特別に感じられるほどの思い出とも同じ何かがあったと思います。

外国人の立場になって、学校に通ってアルバイトをしたり、いろいろな人々と付き合いながら交流したり…。特に北海道は景色もきれいで、食べ物もおいしく、北見の方々は皆親切で、良かったです。

たまに韓国に帰りたい気持ちもありましたが、ここで過ごした時間が惜しくて短く感じられるほど楽しい時間でした。

思い出の写真



私の楽しく過ぎた一年間

DULAMSUREN PUREV

皆さん お元気ですか。

私は本当に嬉しいです。なぜなら私は北見工業大学に来ていろいろな国の友達をたくさんできました。優しくて元気な友達に会ってとても良かったです。

皆さんと一緒に勉強した日本語授業も面白くて楽しかったです。

北見工業大学国際交流センターの皆様、いろいろお世話になりました。皆様のおかげで日本の生活や文化など様々なことを教えてもらいました。

この間一緒に住んだ孫さんにもありがとうございますと言いたいです。

1年間本当に楽しかったです。モンゴルへ帰って日本の生活をいつも思い出します。

皆さん、いつかどこかで、また会いましょう。本当にありがとうございました。

思い出の写真



Message Board

Message Board